

プログラム紹介

A コース: オークヴィレッジ / 森林たくみ塾

場所: 岐阜県高山市清見町

日時: 2008年8月30日 ~ 9月3日

■講座のねらい

- 15 期生：「前期講座で自分たちが得たもの、学んだもの」を、16 期生に「自分の言葉として」いかに伝えられるか。
- 16 期生：環境問題解決のための「具体的行動のひとつ」として「森の手入れを実践する」中で、自分の内面におきる気持ちの変化を大切にしながら、「体験を腑に落とす」。

■講座中に伝えたいこと

知識を蓄えたり考えたりすることだけでなく、課題の解決には具体的な行動に移すことが重要。地球温暖化問題において、森が持つ二酸化炭素固定能力への期待感を理解する。その能力を十分に発揮させるには森づくりを進めなければならない。一人より二人。素人でも束になってかかれば大きな成果を生み出す。そのために、人の環 = 人を束ねる仕掛け（ネットワーク）づくりが大切。行動するためには、道具の的確な使用法と安全な作業についての理解が不可欠。

■そのために大切にしたいこと

森での実践的な活動を主軸とする。
森づくり活動には、森を面白がる視点も重要。
体を使って実体験する。（頭でっかちにならない！）
何事もやってみる。（やらなきゃ何も進まない！）

■プログラム進行表

=====	
1日目	8月30日(土) 出合い、再開 ~ 環を広げる
=====	
14:00	受付開始
14:20	開講式 / オリエンテーション / アイスブレイク
	16期生 -----
15:30	実技「森づくり導入編」まずは伐ってみよう
	グループ討議「なぜ森の手入れが必要なのか」兄弟子への質問状
	15期生 -----
15:30	実技「前期講座をふり返って」
17:00	グループ討議「何が分かって、何が出来るようになったのか？」

17:30	小講義「手を掛けて森を育てる」
18:00	夕食
19:00	「一日のふり返りと分かち合い」
19:30	「森人大交流会」
21:00	終了

=====

2日目 8月31日(日) 引き渡すもの、受け継ぐもの

=====

07:00 起床
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:30 **16期生** 実践「森人、事始め」
15期生 実技「弟弟子を迎える」
12:00 昼食
13:00 森人がつながる ~引き継ぎの儀
14:30 **15期生** プログラム終了、解散

-----以降、16期生のみ-----

15:00 小講義「木の辿る道 ~樹から木へ」
16:00 見学「オークヴィレッジ」木という素材を知り尽くす
18:00 夕食
19:00 「一日のふり返りと分かち合い」
19:30 自由交流会
21:00 オプショナルツアー「新月のナイトハイク」

=====

3日目 9月1日(月) 森と私のつながり

=====

07:00 起床
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 実践「森づくり・利活用編」 どうすれば使えるようになるか
09:45 実践「森のモノづくり」
12:00 昼食
13:00 実践「森のモノづくり」仕上げ ~作品発表
14:15 小講義「森と人のつき合い方」
15:00 見学「森人の暮らしを見る」(民具収蔵庫)
16:00 見学「森林たくみ塾」素材を生かす技
17:00 実践「森づくり事始め」
18:00 夕食
19:00 「一日のふり返りと分かち合い」
19:30 小講義「作業計画を立てる」
20:15 自由交流会

=====

4日目 9月2日(火) 森と私と、社会のつながり

=====

07:00 起床
07:30 目覚めの体操
07:45 朝食
09:00 実践「森づくり計画編」
12:15 昼食
14:00 特別講義「稲本正 環境問題を考える」
15:15 森づくりのまとめ「何がどう変わった？森と自分」
17:00 特別講義「NECのCSR活動」(NEC CSR推進本部社会貢献室 東富彦さん)

18:00 夕食
19:00 「一日のふり返りと分かち合い」
19:30 「大交流会」NEC社員の方を迎えて
21:00 終了

=====

5日目 9月3日(水) 別れ、旅立ち

=====

07:00 起床
07:45 目覚めの体操
08:00 朝食
09:00 小講義「日本人の自然観」
09:30 小講義「人の環づくり」
10:00 スライドショー「5日間をふり返って」
10:30 実践「ソロ～ひとりでふり返り」
12:00 昼食
13:00 全体のふり返り
14:00 閉校式
15:00 プログラム終了

■ 1日目 8月30日(土) 出会い、再開 ~環を広げる

半年振りの再会に沸いている15期生。一方で、戸惑いの表情で物静かにたたずむ16期生たち。この講座で15期生たちが何を伝え、16期生たちがどう変わっていくかが楽しみだ。



開講式

森林たくみ塾理事長・佃のあいさつ。

環境問題は、「知っている」から「している」へ。15期生は、既にその壁を突き抜けているはず。16期生の皆さんもこの壁を突き破ってください。知っていることを自分のものとして「腑に落とす」まで理解することも大切。みんなと話す中で、講座を通してそれが見えてくるようにしてください。



アイスブレイク

出身地のマップづくりを行なった。話し合いながら、お互いの位置関係を把握して立ち位置を決めていく。位置が決まったところで東西に分かれ、自己紹介を行なった。遊びを通して始まったコミュニケーションで、16期生の表情もほぐれてきたようだ。



実技「森づくり導入編」(16期生)

山へ入る装備を整えると、活動地までの山道を、五感を研ぎ澄ましながらか歩いた。足裏で感じる地面、甘い香りや臭い匂いのする葉っぱ。名前を知ることより、感じることから始めよう。

活動地までの傾斜を上がったところで、道中に危険だと感じたことを挙げてもらった。「斜面が滑りやすい」「切り株に脚を取られる」「トゲのある木や草がある」などなど…。アスファルト舗装された道路や管理された公園と違い、森の中は隠れた危険がたくさん。自分の安全確保するために、危険を予測する訓練を行なった。



続いて、傘を差して歩ける程度の間隔で木を伐ることだけ指示をして、森の手入れの作業に入った。頭で理解してから行動に移ることに慣れている学生には、説明もなくいきなり作業に入ったことに戸惑いを感じているようだ。自分で答えを見つけ出すプロセスでは、考えるよりもまず行動。疑問・質問など、行動の中で変化する自分の気持ちを大切にするようにアドバイス。学校とは違う、現場で学ぶスタイルだ。





グループ討議「なぜ森の手入れが必要なのか」（16期生）

「どんな木を伐ったらよいのだろう。」

「そもそも、森の木を伐る必要があるのだろうか。」

「どういう森にしようとしているのだろうか。」

「整然と木が生えている人工林より、木が絡み合っている雑木林のほうが、より自然の姿なのでは？」

「利用する木はよい木、利用しない木は悪い木なのか。」

「どこまで木を伐ったらいいのだろう。」

「伐ったほうがいい森になるのか、ほっといたほうがいい森になるのか。」

「いい森とはそもそもどんな森なのだろうか。」

自分の頭で感じたたくさんの疑問が出てきた。この場では疑問に対する解説をせず、これらの疑問・質問を模造紙に整理して、明日兄弟子たち15期生に渡す質問状を書き上げた。



実技「前期講座をふり返って」（15期生）

半年振りに訪れた活動地を前に、前期講座で自分たちがどんな思いでどんなことを行なったのかをふり返った。

グループ討議「何が分かって、何が出来るようになったのか？」

（15期生）

前期講座で何が分かったのか。そこで何が出来るようになったのか。「自分も最初は だった、でも今は だ。」このことは何とか伝えられそうだ。

そして16期生に何を伝えられるか。自分たちが思い悩んだ過程そのものが弟弟子にとっても素直に共感できることだ。

「どんな木を伐っていいのか分からなかった。どの木を伐ればいいのかを学ぶのかと思っていた。」

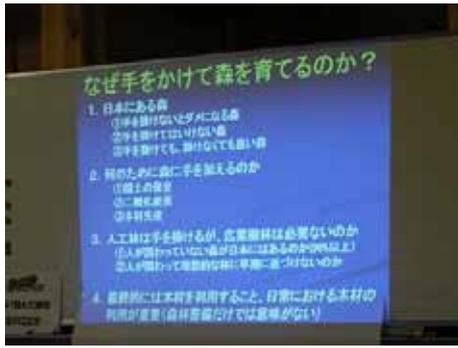
「どんな森にしたいのか、自分たちの思いが大切。」

「行動することも大事。」

「継続的な手入れが大切。森との関わりが大切。」



自分たちの経験を通して生まれた言葉で、弟弟子に伝える内容がまとまってきた。



小講義「手を掛けて森を育てる」

「人間が手を掛ける = 自然破壊」、「人間が手を掛けない = 自然保護」というステレオタイプでは、森林問題の本質は見えてこない。海外での森林面積の変化や、昔の日本人が森とどのように関わってきたのかなど詳細なデータを通じて、人が手を加えることでどのように森を作ってきたのかを見た。

山の神様に感謝をしつつ木を伐る昔の日本人、7世代先まで考えて行動するネイティブアメリカンなど、考えさせられることも多かった。

森人大交流会

15期生には、前期講座以降この半年で変わったことをプレゼンしてもらった。「進路を決めることができた。」「一歩行動に踏み出した。」「お店を始めた。」などなど。彼らの変身ぶりは、我々スタッフにも想像以上のものだった。「僕たち、半年でこんなに変われないよ」とは、16期生の声。

16期生には「森や環境に目覚めたきっかけ」を話してもらった。こうしたことがお互いを理解するきっかけとなり、引き続き夜遅くまで交流を深めた。



■ 2日目 8月31日(日) 引き渡すもの、受け継ぐもの

実践「森人、事始め」

昨日まとめた兄弟子への質問状を、弟弟子が順に読み上げる。1年前の自分たちの姿を思い浮かべながら、神妙な表情で聞く兄弟子たち。

2グループに分かれ、質問状の内容を踏まえながら作業を指示していく兄弟子たち。自分たちの経験を、自分たちの言葉として伝えていくその姿には、うわべだけでない本物の知識が伺えた。まさに「腑に落として」くれたのだろう。



森人がつながる ～引き継ぎの儀

15期生たちは地球の危機を「森人」が救う寸劇を披露。そして代々引き継がれる「森人の鉈」が兄弟子から弟弟子に受け渡された。15期生一人一人からもらった言葉に、「森人」としての実りの重さを感じた。

名札にお礼のメッセージを書き込むことになり、感謝の言葉を添えて手渡した。別れを惜しみつつ15期生たちの見送りをした。



小講義「木の迎る道 ～樹から木へ」

ここからは16期生だけとなる。

山で伐られた木はどのような道をへて木材となるのだろう。自分たちの活動で生み出される木を「材料」として生かす視点を持てるよう、道筋を整理した。

見学「オークヴィレッジ」

「100年育った木で100年使える家具を」という理念で活動するモノづくり集団「オークヴィレッジ」のショールームを見学した。木の特性を読みながらつくる作品たちを目にして、漠然と捉えていた木への見方がずいぶん変わったようだ。



オプションツアー「新月のナイトハイク」

新月で真っ暗闇の林道を、一本のロープだけを頼りに一列になって歩いていく。初めは前を歩く人の姿も見えないが、次第に目が慣れてくるとぼんやりと周りが見えてくる。「あっ！ホタルだ！」季節外れのホタルが林道のあちらこちらで瞬いていた。

歩き始めはあいにくの曇り空だったが、空が開けたところまで林道を抜けると、降り注ぐような星空が現れた。しばらく空を眺めて時を過ごした。「あっ！流れ星！」五感を研ぎ澄まして感じる森は、最高のショーだった。

■ 3日目 9月1日(月) 森と私のつながり

実践「森づくり・利活用編」

直径 20cm のクリの丸太を、チェーンソーを使った簡易製材機で板にする。フルスロットルで、エンジン全開。恐る恐るだが手に伝わる木を切る感覚に、笑顔の充実感。刃物を扱っているという緊張感が、真剣さにつながっている。

丸太を割ると、中から立派な木目が現れた。丸太からは窺い知れない表情に「すげー」という声。

実際に持って生木の重さを実感。「芯持ち材は割れやすい。」「製材した板は乾燥によって反るので、製品にする前に再度平らにする必要がある」「切り方によって木目の表情が変わる」など、今まで身近に感じていても知らなかった木の辿る道を知る。

斧を使って、製材した板を割っていく。まっすぐに切れるチェーンソーとは違い、今度は木目に倣って割れていく。「スカッと割れて気持ちいい。」年輪の中心を割ると、くねっと曲がった1年目の年輪が現れた。「こんなに曲がっていても、がんばって大きくなったんだな。」木から、たくさんの気づきを得ているようだ。



実践「森のモノづくり」

早速クリの板を使って、自分たちでバターナイフ、フォークなど作品を作ることにした。まず皆に聞いてみると、鉛筆を削ったことのない学生もいる。安全な使い方の説明後、ノコギリ、切出しナイフなど、木工の道具を使って、取り掛かった。

最初から形を決めて取り掛かる人、カンナで削ることが楽しくなってしまう人、それぞれのやり方で作ることを楽しんだ。

小講義「森と人とのつきあい方」

水に濡らした杉葉で涼しさを演出するなど、昔の人は感性が豊かだった。自然と関わるには、昔の人の感性を見習うことも必要。民具収蔵庫へ向かう前に、頭の中で下準備を行なった。



見学「森人の暮らしを見る」(清見・民具収蔵庫)

木の枝の形を生かした鍬、曲がりを利用した穂叩き棒や囲炉裏の鉤、樹皮を使ったカゴや箕など、素材の特徴を知り尽くし、伐り時から加工方法に至るまで「森人」が、森の恵みを暮らしの中に巧みに生かしていた様子を、民具を通して体感。



見学「森林たくみ塾」

プロの木工職人を養成する森林たくみ塾では、学生たちと同世代の若者たちが修行に励んでいる。ここでは木材が作品になっていく流れを見ることになる。

今年は3名の講座修了生たちが塾で修行をしている。話しかけようとしたが、付け入る隙もないほど真剣に実習に取り組んでいた。



実践「森づくり事始め」

明日森の手入れを行なうことになる、新たな活動地を下見した。一口に森といっても、場所が変われば姿も変わる。

小講義「作業計画を立てる」

森を正しく理解するためには、100年単位での森の成長についての知識も必要。森の遷移の話に絡めながら、里山を守ることと原生林を守ることの違いを説明した。

■ 4日目 9月2日(火) 森と私と、社会のつながり

実践「森づくり計画編」



作業方法を16期生たちに任せると、バラバラに散らばってササ刈りの作業を始めたようだ。一度声を掛けて進捗を確認すると同時に、今の作業方法がベストな方法かどうかを話し合った。その結果、横一列になって下から上に向かって刈っていくことに。藪だったところが20分ほどで広場になってきた。バラバラにやるよりもみんなでまとまってやることで、達成感が得られたようだ。



前半はササ刈りで終わったが、後半はいよいよ木を伐り始めることに。空を見上げたときの光の入り具合を確認しながら、混み入っている場所を傘がさせるくらいの空間ができるまで伐る。最後に伐った木を一ヶ所に集め、林の中の整理をした。

特別講座「稲本正 環境問題を考える」

オークヴィレッジの代表でもあり、環境教育の分野をリードしてきた稲本氏から、豊富なスライドを交えながら環境問題についての話を頂いた。

競争ではなく、お互いにWin-Winの関係になることの重要性、2割が変われば残りの7割がついてくること、説明・説得でなく楽しいと思わせることが重要、2012年のCO2濃度がターニングポイントとなるなど、私たちがこれから環境問題を考えていく上で、重要なポイントを示していただいた。

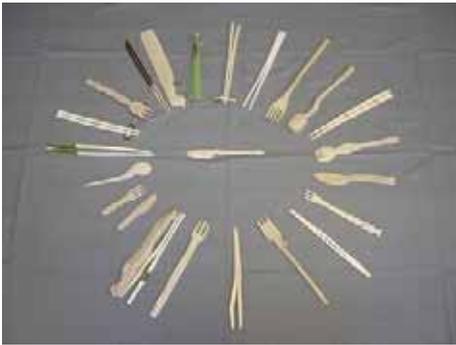




森づくりのまとめ 「何がどう変わった？森と自分」

「入りたくなる山に近づいた。」「みんなでやったほうが楽しかった。」「家の山も手入れしてみたい。」「木を伐ることへの罪悪感を整理できた。」「知識で知っていることでも、実際にやってみると知らない世界がある。」「やってみたら意外にいけるんだなという感覚が、これからの生き方にプラスになりそう。」

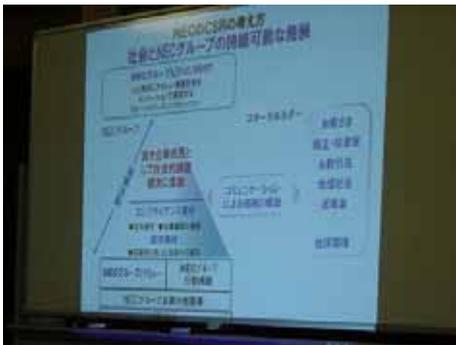
森づくりを通して学んだことは多いようだ。



同時に、昨日制作した作品の発表も行なった。

「カンナ削りが楽しかった。」「初めて小刀を使って削った。」「自分が思っていたイメージに近づけることへの大変さを感じた。」

道具を使って自分の手でモノを作り出すことを通して、森の恵みを生かすことの楽しさが感じられたらどうか。



講座「NECのCSR活動」

この講座の協賛者であるNECよりCSR推進本部・社会貢献室長の東富彦さんをお招きし、NECのCSR活動についてお話を伺った。

これから社会へ旅立つ学生たちには、企業人としてどう振る舞うべきか考えさせられる内容だった。16期生には質問を用紙に記入してもらい、次の交流会で東さんに質問することに。



「大交流会」 NEC社員の方を迎えて

NECの東さんにも引き続き参加していただき、講座最後の交流会を迎えた。まずは質問状に従って、東さんに一つずつ答えてもらった。CSRについて、働くということについて、また東さんへの個人的な質問も含め、さまざまな内容について話し合った。普段企業人と接する機会の少ない学生にとって、とても有益な時間が過ごせた。



■5日目 9月3日(水) 別れ、旅立ち

講座「日本人の自然観」

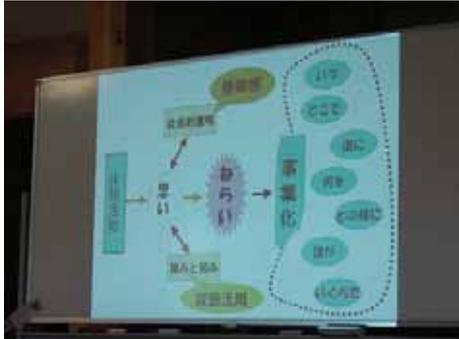
普段何気なく接している自然。それらも生まれ育つ環境によって変わる。私たち日本人の持つ「じねん」の体質と、分析的観点から生まれる「Nature」の区分けを整理した。私たちはこの二点を混同してしまっていることも。

講座「人の環づくり」

この講座で得たものを行動につなげるために大切なものが「人の環」。それをどのように広げていくべきなのか整理した。

スライドショー「5日間をふり返って」

この5日間をスライド写真でふり返ってみた。あっという間の5日間だが、盛りだくさんの内容を行なってきたことが分かる。改めて一つ一つを思い起こし、この後のソロへつなげる。



実践「ソロ～ひとりでふり返り」

一人きりで静かに5日間をふり返る。自分自身の気持ちの変化を読み取りながら、自分の目標を見つける時間。



全体のふり返り

この講座を通じて感じたことを、一人ずつ述べてもらった。短い5日間だったが、それぞれに大きなものを獲得してくれたようだ。



閉講式

後期講座までの期間が3ヶ月と短い、「知っている人」から「している人」へのはじめの一步を踏み出すことを約束して4泊5日の講座を終了した。



■Aコース:オークヴィレッジ/森林たくみ塾、受講生(16期生)の感想です。

あなたは、この講座で関わった人たちと、どんな交流を持つことができましたか。

- 15期生のキラキラしている目に衝撃を覚え、自分には何があるのかを考えた。自分の中に武器を持つ人間は素敵だ。
- 人の環を広げていくことの楽しさ、すばらしさを実感できた。
- 人生の中で、悩んだり迷ったりしながらも、自分で決断して前進していこうとする姿勢について聞くことができた。「悩んだらやってみよう」は、とてもいい言葉だと思う。
- いろんな生き方があっていいんだということを感じて、将来を考える上でも気持ち楽になった。
- 交流のしかたやいろんな考え方を知り、視野が広がったと思う。
- ここで出会えた人たちとはこれからも未永く環境、特に森林をはじめとするいろんな場面で交流を続けていけたらと思います。
- 学校の専門とはまったく別の、「環境」に熱い仲間との交流。
- 今まで周りで「環境」に関心を持つ人がいなかったのも、衝撃を受けました。
- 様々な引出しを持っている人と話しをすることができたのは、本当に貴重な経験でした。
- この講座で関わった人たちは、皆さん経験や考え方、生活などがまったく違って、自分の知らない世界をのぞくことができました。自分がいかに狭い世界で生きていたかを痛感しました。
- 行動する勇気や、やる気があれば、周りのみんなが受け入れてくれ助けてくれることを感じ、ありがたかった。
- 人付き合いが下手な私を温かく見守ってくださっていたことを感じました。ここでは自分のことを隠すこともなく話していることは驚きです。暖かく接することを私も実践していきたいです。

あなたは、森からどんな気づきを得ることができましたか。

- 自然に触れて遊ぶことで「楽しむ」ということの大切さに気づきました。頭で理解して知識として終わらすのではなく、実際にやってみることが大切だと感じました。
- 大学受験の問題は、答えがひとつしかない。高校時代、ひとつの決められた答えに向かって勉強をした。森についての講義や実際に森に入ってみることで、答えはひとつではないと気づかされた。
- 今まで、森は自然のものというイメージがあって人が手を掛ける必要性があまりわからなかったが、今回参加して手入れを必要とする森の多さと、手入れの大切さを学んだ。
- 山の中でのレクリエーションにはあまり興味がなく、「森の人」を作ることにしか注目をしていなかった。でも今回は、森の「人づくり」を身をもって感じた。森の手入れが自分に気づきを与えてくれた。「人を育てるための、森は有効な資源」という見方もできることに気づき、衝撃だった。
- クリの年輪などから、失敗しても傾いていても矯正していけることが分かって、失敗など恐れずにやっていいんだという森の柔軟さ・豊かさ・寛容さを感じました。
- 頭で考えてばかりでなく、まずやってみようとする。いっぱい失敗する。

- 木を伐ることが悪いことじゃないと分かったのは大きかった。
- 森は人間の手を必要としている。人間も森を必要としている。
- 日本の森が元気になれば、日本も元気になると思う。
- 森から「五感」を取り戻してもらいました。この五日間、五感をフルに活用しました。もっと自ら研ぎ澄まさなくては！！と気づかされました。
- ありすぎる情報に惑わされたり、楽な方へ便利な方へと流されていってずっとくすぶってしまっていた「環境問題」への思いがすっきりとした存在で頭の中に現れてきました。
- 迷ったらまず行動してみる。自分の出した答えは全て正解だということが分かった。

あなたは、どんな「森人」になろうと思いましたか。

- できることから始める。まずは「マイ箸」を持つ。身近な友だちにどうして必要なかを伝え、広げる。
- アーリーアダプターとして森の大切さを、楽しさやぬくもりを交えながら大勢の人に伝えていくことができるような森の人になりたいです。
- この講座で学んだことを友達や子どもたちに伝え、多くの人々に環境について興味を持ってもらいたい。
- NECのCSR講座を伺い、来春から働く企業にあるボランティアクラブに参加してみたいと強く思いました。
- 昔の人がそうしていたように、森に対する感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。お箸を使うとき、紙を捨てるときなどには、その材料となっている木のことを思い出すようにしたい。
- 森を通じて人のつながりを実感した。これから先、自分もそのつながりの一部としてつながって、つなげていきたいと思えます。
- 直接森と関わる生活をしなくても、森を身近に感じ、ふれあいも求めていくようにして、森と自分の生活を考えていくと共に、森に触れて感じたことや、わずかながら吸収できた知識を、自分から少しずつでも周りに発信していけたらと思う。
- 「環境」を軸に仲間を集め、自ら計画し企画をつくり、行動を起こしたい。
- なりたい自分になるために、今何が自分に必要か、そして何をすべきかを考えられる人間になる。

プログラム紹介

B コース: キープ・フォレスターズ・スクール

場所: 山梨県北杜市

日時: 2008 年 9 月 6 日 ~ 9 月 10 日

■講座のねらい

環境問題解決の第一歩は、コミュニケーションから。

自然と人、人と人をつなぐ「インタープリテーション」の考え方や手法を学びながら、自分のコミュニケーションを見直し、“今、自分ができること”を考えます。

環境教育について学ぶ。(企業やNPOにおける環境教育の取り組みについて知る)

インタープリテーションの考え方や手法について学ぶ。

自分自身と環境教育との関わりについて考える。

全国の仲間とのネットワークを作る。

自分自身のねらいを達成する。

■そのために大切にしたいこと

体験から学ぶこと。

お互いから学ぶこと。

楽しみながら学ぶこと。

■プログラム進行表

1日目 / 9月6日(土) テーマ: 出会う

日の出 05:21・日の入 18:06 / 月の出 11:38・月の入 21:17 月齢 6.3

12:45	15期生	講座の準備(ふりかえりと目標設定)
13:25	15期生	実習: 環境教育プログラム実施の準備
14:30	全員	開講式 / オリエンテーション
15:00	全員	実習: 環境教育プログラムの実施 & 環境教育プログラムの体験
16:10		休憩、チェックイン
16:30	15期生	実習: 環境教育プログラム実施のふりかえりとわかちあい
	16期生	講義: 環境教育概論
17:20	全員	目的の共有化 & 自己紹介
18:00		夕食
19:15	全員	環境教育プログラムの体験 ナイトハイク
20:15		1日を整理する時間
20:45		終了
		自由交流会

=====
2日目 / 9月7日(日) テーマ:つなく

日の出 05:22・日の入 18:05 / 月の出 12:36・月の入 22:01 月齢 7.3
=====

07:00 15期生 受講生の時間
16期生 実習:環境教育プログラムの体験 ガイドウォーク
08:00 朝食
09:30 全員 実習:森林管理作業体験
12:00 昼食
13:00 15期生クロージング
14:00 15期生お見送り、休憩

--- ここから 16期生のみ ---

16:00 実習&講義:体験学習法概論
18:00 夕食
19:15 講義:企業におけるCSR(NEC CSR推進本部社会貢献室 東富彦さん)
19:45 質疑応答
20:00 1日を整理する時間
20:15 終了
20:30 企業担当者との自由交流会

=====
3日目 / 9月8日(月) テーマ:気づく

日の出 05:22・日の入 18:03 / 月の出 13:30・月の入 22:51 月齢 8.3
=====

07:00 実習:環境教育プログラムの体験
08:00 朝食
09:15 実習:環境教育プログラムの体験 環境教育施設の見学
12:00 昼食
13:00 実習:デジカメスライドショー作りのオリエンテーション
13:30 実習:デジカメスライドショー作り
16:30 実習:デジカメスライドショー発表会
17:40 休憩
17:45 実習:デジカメスライドショーふりかえりとわかちあい
18:15 夕食
19:20 講義:体験学習法の理解
20:00 1日を整理する時間
20:15 終了

=====
4日目 / 9月9日(火) テーマ:伝える

日の出 05:23・日の入 18:02 / 月の出 14:19・月の入 23:47 月齢 9.3
=====

08:00 朝食
09:15 講義:環境教育概論
09:45 実習:環境教育プログラム実施&相互評価オリエンテーション
10:15 実習:環境教育プログラム実施の準備
12:00 昼食
13:00 実習:環境教育プログラム実施&相互評価
14:30 休憩
15:15 実習:環境教育プログラムの練り直し
15:45 実習:環境教育プログラム実施のふりかえりとわかちあい
16:15 休憩
17:00 講義:環境教育概論
17:30 講義:安全対策
18:00 夕食
19:15 環境教育プログラムの体験 ナイトハイク
20:15 1日を整理する時間
20:30 自由交流会
=====

=====
5日目 / 9月10日(水) テーマ:ふりかえる

日の出 05:24・日の入 18:00 / 月の出 15:02・月の入 00:46 月齢 10.3
=====

08:00 朝食
09:30 補いの講義
10:00 質疑応答
10:30 休憩
10:40 講座のふりかえりとわかちあい
12:00 昼食
13:00 16期生クロージング
13:30 終了



■ 1日目: 出会う

講座の準備(ふりかえりと目標設定 / 15 期生)

実習: 環境教育プログラム実施の準備(15 期生)

16 期生よりも一足早く 15 期生は集まり、久しぶりの再会を懐かしむ間もなく、スライドショーを見ながら前期講座の様子をふりかえる。後期講座を迎えるに当たり、改めて自分の目標を設定する。その後、環境教育プログラム実施に向けて、グループに分かれて準備を進めた。開講式までの限られた時間で、グループ内の意見をまとめ、プログラムを組み立てていく。



開講式 / オリエンテーション

16 期生も無事に到着し、15 期 8 名、16 期生 10 名の計 18 名が会場のフォレストーズ・キャンプ場に顔を揃えた。15 期生同士は再会に笑みがこぼれるが、対照的に 16 期生は緊張した面持ちで開講式の席につき、4 泊 5 日の講座の幕が開いた。

実習: 環境教育プログラムの実施(15 期生)

& 体験 (16 期生)



15 期生が前期の実習で行った環境教育プログラムを、16 期生を対象に実施する時間。前回の改善点を活かしたプログラム内容になっていた。プログラムが始まると 16 期生の緊張も少しずつ解けて、笑顔が見られるようになった。15、16 期生が混じって体験をするうちに、お互いの距離も近くなり、終始楽しい雰囲気の中でプログラムが進んだ。16 期生を迎え入れ打ち解けようとする、15 期生の気持ちが伝わってくるプログラムだった。



環境教育プログラム実施のふりかえりとわかちあい(15 期生)

自分たちが実施した環境教育プログラムについてふりかえる。お互いが率直にフィードバックできる関係が築かれていて、それぞれの意見をていねいにメモしていた。緊張から解放された安堵感で終始和やかに進んだが、さらに良いプログラムを作りたいという思いが感じられた。



講義:環境教育概論 (16期生)

「"環境問題"と聞いて思い浮かべるもの」を、一枚の紙に一つずつ書き、その問題が「地球的アプローチ」か「地域的アプローチ」か、また「人と人との関わり」か「自然と人との関わり」か、自分が思うところへ貼っていく。大気汚染一つとっても、地球的に捉える人もいれば地域的だと思う人もいる。同じ問題でも捉え方は人それぞれということが分かる。そこから、環境教育が扱う領域の広さを知るとともに、環境教育は「環境と人間の関係に気づき、よりよい関係をつくっていくため、自ら考え行動できる人を育てる教育活動」であることを知る。



目的の共有化(ねらいの確認) & 自己紹介

5日間の講座のねらい、スケジュールなどを説明した後、席を円に囲んで自己紹介。自分を表すキーワードを紙に書き、一人ひとりが自己紹介をした。一人の持ち時間は30秒。与えられた時間の中で、自分のことを伝える難しさを感じたようだ。

環境教育プログラムの体験 :ナイトハイク

15期生にとっては最後の、16期生にとっては最初の夜。雨が降りしきる森の中で、しばらくの間、一人ひとりが静かに過ごす。真っ暗な森、でも空は明るく感じたこと。雨の音が思いがけず大きかったこと。雨がもたらしてくれた貴重な体験になった。



■2日目:つなぐ

環境教育プログラムの体験 ガイドウォーク(16期生)

昨夜までの雨も止み、気持ちのいい朝を迎えた。スタッフの案内で、キャンプ場近くの自然歩道を散策する。小川のせせらぎに耳を傾けながら、草花を使った遊びを楽しんだ。森を抜け、突然広がる展望に歓声上がる。目の前には広大な牧草地。まぶしい光を浴びながら、朝の清々しさを全身で感じた。

実習:森林管理作業体験

講座で大切にしていることは、体験から学ぶこと。この日は、実際に自然歩道(トレイル)の整備をしながら、森林の管理や共同作業におけるコミュニケーションを学んでいく。トレイルにウッドチップを撒く、トレイルから流出したウッドチップを元に戻す、チップの流出を防ぐために、間伐した木を用いて柵を設置する、といった作業を班に分かれて行った。時間も道具も限られた中で、目標を達成するために、班で相談しながら作業を進めていく。強い日差しの下、「協働」する楽しさや難しさを実感する時間になった。作業終了後は、それぞれの班で行った作業の成果を確認。形に残る作業を終えて、お互いに達成感を感じているようだった。





15期生クロージング

15、16期生それぞれ「今の気持ち」や「講座で学んだこと、学びたいこと」を紙に書き、その紙を持って自由に見せ合いながら、仲間の気持ちを受け止めていく。

15期生にとってはあっという間の2日間。最後に一人ずつ感想を述べ、込み上げてくるものを抑えながら今の気持ちを伝えていた。それは、かけがえのない仲間達とつながっていることの喜びと感謝に溢れていた。



実習・講義：体験学習法概論

16期生だけになって最初の時間。実習を通して、改めてお互いのコミュニケーションを深めていく。全員が円になり相手の名前を言ってからボールをその相手に投げる。そのボールの数は1つでなく、2個3個と増えていく。このボールがまさに言葉のキャッチボールで、実は言葉だけでなく、気持ちもボールを投げるときの強さで表わされているということを知る。このあと3つのグループに分かれ、各自に異なった情報が与えられ、その情報を元に課題を解決していくグループワークに取り組んだ。課題自体も情報の一部として与えられており、情報を口頭とキーワードのみ文字で相手に伝えることは可能だが、情報を「伝える」そして「共有化」することの難しさを感じた。



企業におけるCSR

NEC・CSR推進本部・社会貢献室の東富彦さんより、NECのCSRにおける社会貢献の位置付けや基本方針、具体的な取り組みについて話を伺う。一例として、企業とNPO/NGOとの関係が話題になったが、両者の関係は、従来の「支援」から「協働」へと変わり、そして今後は「共創」に進むことが示唆された。将来や就職について考える時期にある学生には、企業の方と直接話すことが出来る貴重な機会となった。

企業担当者との自由交流会

夜の自由交流会では、NEC東さんを迎えて、一問一答形式で話が進んだ。「今の仕事に就いた理由」「仕事で大事にしていること」「これからの夢」などといった質問に対して、紙にキーワードを書いて回答するという形式を試みた。16期生にとっては、これからの自分の進路や生き方に、期待や不安があると思われるが、人生の中で「壁」に当たったときや「決断」に迫られたときの、「判断」や「乗り切る方法」について、東さんやスタッフからの回答は、大いに参考になったようだった。

■3日目:気づく

環境教育プログラムの体験



2つのグループに分かれて、グループごとに森の中から一本の木を選ぶ。次に、一人ひとりが木を観察しながら、その特徴をメモしていく。書かれたメモを、グループの中で組み合わせ、一つの詩に仕上げるという課題が提示される。戸惑いながらも、話を進めていくうちに、一見、関連のない言葉の連なりが、見事な詩に仕立てられた。木に思いを巡らせながら、互いの表現の多様さも知ることができた。

環境教育プログラムの体験 (キープ協会の事例紹介)

(1)「やまねミュージアム」



キープ協会における環境教育の取り組みを紹介。まずは「やまねミュージアム」。ここでは、ヤマネという小さな野生動物を通じて、「総合的な研究」「保全」「環境教育」に取り組み、「社会化」する役目を担っている。具体的には、これまでの研究で明らかになったヤマネの生態や、保全や環境教育活動の実例を紹介している。また、30年近くヤマネを研究している、湊秋作館長の話からは、「思い続ける」ことの大切さを学んだ。

(2)「アニマルパスウェイ」



アニマルパスウェイは、道路によって分断された森と森をつなぐ小動物用の橋。樹上生活のヤマネにとっては重要な生活道となっている。この道路の上に架けられた橋が、やがては日本中に架けられるように、企業と行政、そしてキープ協会との協働で、開発・普及に取り組んでいる。このような保全の具体的な取り組みを見学することにより、行動することの重要性を再認識した。

(3)「山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」



八ヶ岳自然ふれあいセンターは、清里の自然に関する情報を提供しながら、「森の入口」の役目を担っている。直接手で触れることができる展示が数多く並び、より自然を身近に感じてもらえるよう工夫されている。館内を実際に見学しながら、様々な展示物を例に、効果的なインタープリテーションの手法について考えることができた。最後には、事務所や倉庫など普段見られない場所も見学し、施設を支える裏側の様子を垣間見ることができた。

実習: デジカメスライドショー作り & 発表

いよいよ、自らがインタープリテーションをする実習が始まる。この時間は、デジカメを使ったスライドショー作り。スライドショーで、「NEC森の人づくり講座」のCMを作るという課題が与えられた。限られた時間の中で素材探しから始まり、どのような構成・ストーリーにするのか、そしてパソコンでの編集……。制限時間いっぱいまで取り組み、緊張した面持ちで各班の発表。それぞれの想いが伝わってくる。そして想いが強く、伝えたいことが数多くあるだけに「まとめること」、「伝えること」の難しさがあった。

実習が終わった後、グループごとに、グループ内で起きていた様々な出来事や、グループにおける自分自身の役割、他のメンバーとのコミュニケーションについてふりかえる。他のメンバーの意見も、素直に受け入れられる関係が築かれていたが、同時に、自分自身のコミュニケーションにおける課題も浮き彫りになった。



講義: 体験学習法の理解

デジカメスライドショー作りの実習を踏まえて、体験学習法の考え方について理解を深めた。合わせてインタープリテーションについて概論的な講義があり、インタープリテーションにはさまざまな形や方法があることを知った。

■ 4日目: 伝える

講義: 環境教育概論

環境教育プログラムの実施に向けて、実際に自分たちで行なうプログラムをどのように組み立てれば良いのか、講義で整理する。今までに体験したプログラムを参考に、プログラムを組み立てる上で必要な視点、プログラムの様々な形、そして流れを意識することなどを学んだ。



実習: 環境教育プログラム実施 & 相互評価

自らが環境教育プログラムを実施することで、インタープリテーションについての理解を深めていく。インタープリテーションには様々な形があるが、ここでは参加者が主体的に取り組むことができる内容の自然体験プログラムをグループに分かれて実施する。体験学習法の考え方に基づき、実施後には、相互に評価（フィードバック）を行い、より良いプログラムに発展させるまでの一連の過程を体験する。





まず、「導入」「展開」「まとめ」というプログラムの順序に沿った3つのグループに分ける。その後、スタッフから各グループに対して、プログラムの具体的な内容や手順に説明を受ける。しかし、説明はあくまでも一般的なもののなので、対象者やフィールドに合わせた、アレンジや工夫が求められる。そして、制限時間内にできる限りの準備を進めていく。時間管理も、実習における大きな要素の一つだ。

そしていよいよプログラムの実施。緊張の色は隠せないものの、それぞれが一生懸命にインタープリターとして、プログラムを進めていた。自らがインタープリテーションをする立場になって初めて、インタープリテーションの楽しさや面白さ、そして同時にその難しさを知ることになった。それでも、終始和やかな雰囲気を実習は進み、何より自然の中で過ごす心地良さが一番に感じられた。

実施後、他のグループからのフィードバックを参考に、良かった点、改善点を話し合い、プログラムを練り直した。今回は改善案を踏まえて、まだ見ぬ17期生に向けて再度プログラムを実施することになる。



講義:環境教育概論

環境教育プログラムを自ら実施した上で、インタープリテーションの考え方について整理する時間。インタープリテーションには、「インプット」「編集」「アウトプット」という3つの段階があること。そしてインタープリターに必要な資質についても学んだ。

講義:安全対策

自然体験では欠かすことができない、安全についての講義。自然に潜む様々な危険因子について考えながら、危険には「目に見える危険」と「目に見えない危険」があり、「目に見えない危険」への対策は難しいものであることを知る。自然体験には危険が付きまとう反面、自然の中で行われる環境教育が、安全教育の側面も併せ持つことも学んだ。

環境教育プログラムの体験 (ナイトハイク)

大雨の中歩いた1日目とは対照的に、雲ひとつ無い澄み切った夜空の下、どこまでも静かな森の中を歩く。月光が木々を照らし、幻想的な空間に包まれているようだった。草原の上に寝転がり、しばらくの間、一人になって過ごす。4日間の様々な体験が思い出される夜だった。



■ 5日目：ふりかえる

講座のふりかえりとわかちあい

これまで講義や実習を通して学んできたことを整理する時間。5日間の出来事をふりかえりながら、印象に残ったこと、自分自身のために書きとめておきたいことをまとめた。そして、この講座で学んだことを、今後どのように活かせるかについて考え、話し合った。

16期生クロージング

最後に一人ずつ感想を述べる場面では、ほとんどの学生が感極まっていた。15期生のクロージングでは分からなかった感情が、今になって湧き上がったようだった。この場にこの10名が出会えたことに感謝しながら、次の再会を楽しみに、5日間に及ぶ講座を終えた。



■Bコース:キープ・フォレストーズ・スクール、受講生(16期生)の感想です。

今回の講座の中で印象に残っていることはどんなことですか。

- みんなとの出会い。5日間を通して、このメンバーでのグループが作りあげられていく過程。1日目よりもはるかに居心地のいいグループになった。
- 伝え方。伝えるには楽しいほうがいい、と思っていたけど、静かにゆっくり語りかける伝え方もあるということを学んだ。
- 言葉のキャッチボール。「自分の考えていることを相手に理解させたい」という自分勝手な気持ち。受け手も人なんだという当たり前なことに気づき、ハッとしました。
- ふり返り。よく体験とか経験をするけど、やりっぱなしが多かった。やったことをちゃんとふり返って、自分の中に落とすことが大事だなあと考えた。
- グループワーク。超苦手なことなので、いっぱい挑戦できてよかったかなと思う。

今回の講座で学んだことで、今後に生かせそうなこと、生かして行きたいことは何ですか。

- 自分は自分のままでいいと思えるようになれそう。人にはそれぞれ個性があって、もちろんよいところもダメなところもあるけど、無理に変えようとするのではなく、受け入れて好きになろうと思う。自分の持ち味を生かして、人に伝えたり届けることのできる仕事がしたい。
- この講座で出会った全てが大きいものだった。だから今後自分が何かをしようと思ったとき、ふとこの講座のことを思い出すかもしれない。
- 自分の考えに縛られず、相手の考えの意味を理解することなど、コミュニケーションをとる大事なことをたくさん学びました。
- こちらがいっぱい言わなくても、相手を感じているものが大事であるってことを意識して言葉を選んで伝えたい。
- 今回の講座で学んだもの、それは自分だった。自分の性格、好きなこと、向いていること、やってみたいこと...今まで知っていたようでも整理されてこなかった多くのことが、この5日間で突きつけられ、受け止められた。これから自分の人生を選択していくことになるけど、この先迷うことがあっても、その方向性を頼りに進んでいけると思う。
- 自分の意見を人に伝えるための努力を惜しまないこと。仲間の意見にきちんと耳を澄まし、理解し、受け入れること。いかに普段おざなりにしているかに気づき、改善すべきだと思いました。
- 一人のほうが気楽で落ち着くし、自分自身のことも他のことも冷静に捉えるには一人の時間が大切、と思っていたけど、「自分のことは自分が一番分かっていない」ということの意味がはじめて理解できた。
- 今までいろんな活動をしてきたが、当たり前すぎて考えてこなかった基礎部分を学び、やっとスタートラインに立てた気がする。